

トルコの金融市場動向 Weekly Report

【2018年5月5日～2018年5月11日までの推移】

【1】先週の回顧

先週のトルコ・リラ相場は1週間を通して見ると対米ドル、対円で下落しました。またトルコの2年国債金利は上昇しました。

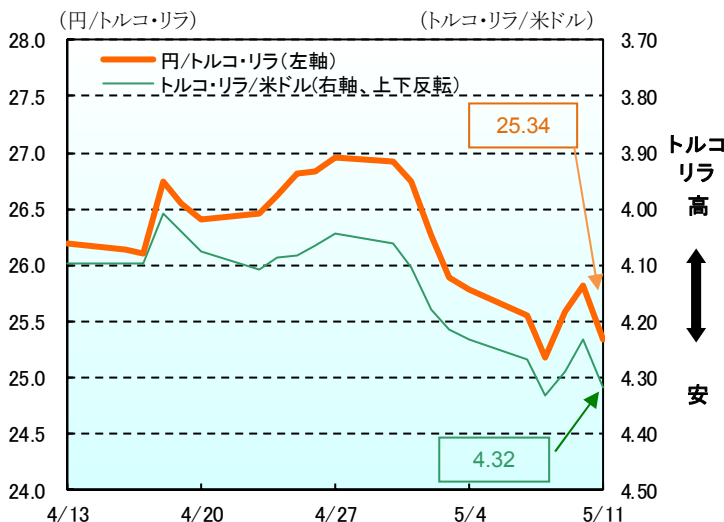
エルドアン大統領は、5月9日（現地、以下同様）に経済担当高官や中央銀行総裁を含めた緊急会合を開き、債券や通貨への売り圧力を和らげるための必要な措置を講じることを発表しました。また中央銀行は同日、トルコ・リラ支援のために米ドルの流動性供給や為替介入の規模を拡大する可能性を示唆しました。これらの対応を受けて、トルコ・リラの買い戻しが入りましたが、11日にはエルドアン大統領が金利の引き下げが必要であるとの発言をしたことから、再度、売り圧力が強まり、債券、為替ともに売られる展開となりました。

【2】今週の見通し

市場では、通貨安傾向に対して中央銀行が大幅な政策金利の引き上げを実施するかどうかが目先の注目点となっています。先週の緊急会合における声明では、資本規制などは排除され、財政、金融政策での対応を示すなど内容は適切なものであったものの、市場の不安感を後退させるためには行動で示す必要があるとみられます。

より中長期的には、選挙を経た後の政権が、対外ゼイ弱性を低減させる政策を採るのかが重要になると考えられることから、選挙動向及び今後の政策に関する発言には注意を払っていく必要があります。

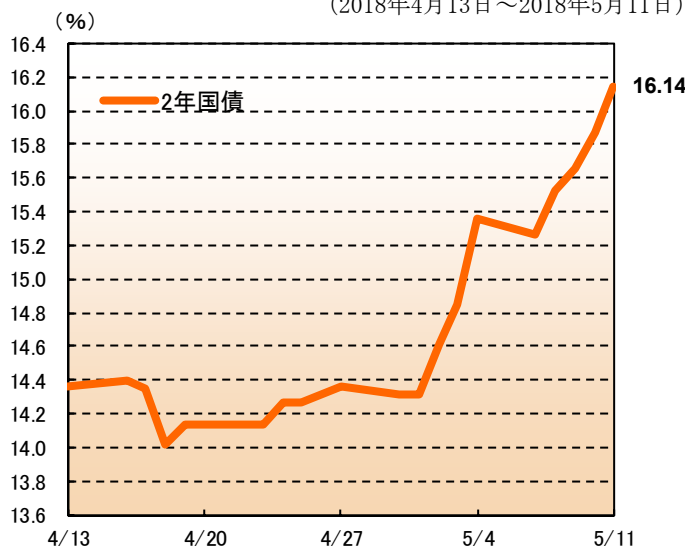
【トルコ・リラ 為替推移】 (2018年4月13日～2018年5月11日)



※四捨五入の関係で数値とグラフの目盛りが一致しない場合があります。

【トルコ 金利推移】

(2018年4月13日～2018年5月11日)



(出所:ブルームバーグより大和投資信託作成)

当資料のお取り扱いにおけるご注意

■当資料は、ファンドの状況や関連する情報等をお知らせするために大和投資信託により作成されたものであり、勧誘を目的としたものではありません。■当資料は、各種の信頼できると考えられる情報源から作成していますが、その正確性・完全性が保証されているものではありません。■当資料の中で記載されている内容、数値、図表、意見等は当資料作成時点のものであり、将来の成果を示唆・保証するものではなく、また今後予告なく変更されることがあります。■当資料中における運用実績等は、過去の実績および結果を示したものであり、将来の成果を示唆・保証するものではありません。■当資料の中で個別企業名が記載されている場合、それらはあくまでも参考のために掲載したものであり、各企業の推奨を目的とするものではありません。また、ファンドに今後組み入れることを、示唆・保証するものではありません。

販売会社等についてのお問い合わせ⇒大和投資信託 フリーダイヤル 0120-106212(営業日の9:00～17:00) HP <http://www.daiwa-am.co.jp/>